

2025年2月23日 朝拝（聖餐礼拝）

「みことばに従い主の勝利に与る」
ルカによる福音書 4章1-13節

鄭 ヒムチャン

■前 奏

■賛 美 讃美歌 399

■主の祈り

■洗礼証し 飯沼 仰

■説 教 聖書箇所：ルカによる福音書 4章1-13節

- 1 さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰られた。そして御霊によって荒野に導かれ、
- 2 四十日間、悪魔の試みを受けられた。その間イエスは何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。
- 3 そこで、悪魔はイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石に、パンになるように命じなさい。」
- 4 イエスは悪魔に答えられた。『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」
- 5 すると悪魔はイエスを高いところに連れて行き、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せて、
- 6 こう言った。「このような、国々の権力と栄光をすべてあなたにあげよう。それは私に任ざっていて、だれでも私が望む人にあげるのだから。
- 7 だから、もしあなたが私の前にひれ伏すなら、すべてがあなたのものとなる。」
- 8 イエスは悪魔に答えられた。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」
- 9 また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから下に身を投げなさい。
- 10 『神は、あなたのために御使いたちに命じて、あなたを守られる。
- 11 彼らは、その両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」
- 12 するとイエスは答えられた。『あなたの神である主を試みてはならない』と言われている。」
- 13 悪魔はあらゆる試みを終わると、しばらくの間イエスから離れた。

1節を見ますと、この荒野におけるイエス様が悪魔から試みを受けられたということが、御霊によって導かれたと記されています。これは少し奇妙なことのように思えます。何故神の御霊がイエスを悪魔の試みへと導かれたのでしょうか。前後の文脈をみると明らかになってくることですが、先に結論をいうと、それは人としてお生まれになったイエス様が神の子であったからです。本日の箇所の前を見ますと3章21-22節において、イエス様がバプテスマを受けられた時のことが書かれています。22節では、天から「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」という声がしたということが記されています。神様はイエス様をわたしの子であると仰せられました。これはイエス様が神の子であるとの宣言です。そして続く23節から本日箇所の直前となる38節までには、イエス様のお生まれのルーツである系図が記されていますが、これは時系列に沿ったかたちで書かれているマタイ1章の系図とは異なり、逆のかたち、つまりイエス様から先祖に向かって遡っていく形式で記されています。そして系図を締めくくる38節の最後のことばは何かというと「そして神に至る」です。この系図もまた受洗の時と同じことが強調されています。人としてお生まれになったイエス様は神の子であるということです。

そして本日の荒野での試みの箇所に続いていきますが、悪魔もまたこの「イエスは神の子である」ということを知っていて、試みたのです。それがよく分かる具体的なこととして、本日の箇所において悪魔は3度イエス様を試みますが、そのうちの2度、3節と9節において「あなたが神の子なら」という言葉をもって、イエス様を試みています。悪魔はイエス様が神の子であるがゆえに試みたのです。何故なら、神の子であるイエス様には神より与えられし救いのご計画をこの地上で成し遂げるといふ使命があったからです。悪魔はこれをさせないために神の子であり、しかし同時に弱さをもつ人であるイエス様を試みたのです。悪魔はイエス様の救い主としての働きを挫折させようと働きかけました、しかしそれも実は聖霊の導きの中で起ったことなのであって、主イエスは聖霊に満たされその誘惑に勝利されたのです。

もう一つ考えて置きたいことですが、それはこの箇所を読む私たちの自身のことです。私たちはこの箇所を読む際、どうしたら私は悪魔の試みに勝てるのかということを考えることがあるではないかと思います。このことについてはまた最後に触れたいと思いますが、まず大事な前提として、私たち人は皆この試みに負けたのだという事実です。しかもはじめの人の時点で負けています。エデンの園で神のことばに逆らい、善悪の知識の実を食べたアダムからです。しかし、それ故に、救い主として来られたイエス様は御霊に導かれて荒野で試みを受けられたのです。

■第一の試み

2-4 節を見てみましょう。

2 四十日間、悪魔の試みを受けられた。その間イエスは何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。3 そこで、悪魔はイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石に、パンになるように命じなさい。」4 イエスは悪魔に答えられた。「『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」

イエス様は 40 日間何も食わず、空腹を覚えられたと記されています。私たちはこの空腹を覚えられたイエス様の姿を通して、神の子でありながら、同時に私たちと同じ人としてこの試みに立ち向かわれたということを知ることができます。悪魔もこのことを知っていました。故に「この石に、パンになるように命じなさい。」と試みしました。しかし、それに対してイエス様は「『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」と悪魔の誘惑を退けられました。

イエス様は「書いてある」と言われているように、聖書のみことばを引用して答えられました。イエス様が引用されたみことばは旧約聖書の申命記 8 章 3 節の言葉です。イエス様が申命記のみことばを引用された意図を知るためには、申命記 8 章の背景を確認しておく必要があります。申命記 8 章 2-6 節を読んでみましょう。これはモーセがカナンに入っていくイスラエルの民たちに語ったことばです。

2 あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。

3 それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。

4 この四十年の間、あなたの衣服はすり切れず、あなたの足は腫れなかった。

5 あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを知らなければならない。

6 あなたの神、主の命令を守って主の道に歩み、主を恐れなさい。

モーセに率いられてエジプトを脱出したイスラエルの民は、荒野で 40 年を彷徨いました。彼らはなぜそのような経験をしなければならなかったのでしょうか。それは彼らが神に不従順であり、また神を信じていなかったからです。エジプトから解放してくださった神の偉大な救いの御業を体験してもなお、神様を信頼することなく、パンがない、水がない、殺すつもりか、エジプトにいたほうがよかったと不平を述べつづけました。イスラエルの民にはパンによる不信が絶えずつきまとっていたのです。そこで神様は 40 年間荒野で彼らを旅させ、彼らが思いもしなかった方法で食物を

与えられました。それがマナでした。毎朝マナを収穫しながら、イスラエルの民は神が確かに生きておられ、約束通りに顧みてくださる方であることを体験したのです。イスラエルはまさに主の約束のことばの結実であるマナを食べたのです。

神様が荒野というまったく頼るものがない場所においてイスラエルを生かされたのであれば、たとえこれからどんなところ、どんな状況においてもイスラエルの民は養われるはずではないでしょうか。だから神を信じて従いなさいということです。イスラエルの民が40年間、荒野にいる間に学ぶべきことはそれでした。しかし、出エジプトした世代はパンの試みに屈し、荒野で滅びました。イエス様は荒野で民が何故滅びたのかということをご存知でした。彼らは食べるものがなくて死んだわけではありません。神を信じず、従わなかったからそうなったのです。実にイスラエルの民に不足していたのは食べることでなく、神への信仰と従順でした。食べて生きることが最優先されるものではないということです。人にとってパンは必要です。ですから「パンだけではなく」とみことばは語ります。しかし、最も優先されるべきは食べることでなく、その人の食べることさえも支配し与えられる神様です。故にイエス様はパンの試みに対して「人はパンだけで生きるのではない」とおっしゃられたのです。

(補足ですが並行箇所であるマタイによる福音書では、このイエス様の返答がルカの福音書よりも長く引用されています。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。)(マタイ4:4)

マタイにおいては、みことばによって人々が生かされることに強調点をおいているのに対して、ルカの福音書は「人はパンだけで生きるのではない」と言い切り、最も優先されるべきは食べることでなく、その人の食べることさえも支配し与えられる神様に焦点を当てているのだと考えられます。)

また悪魔はこの試みの中において、イエス様に神の子としての力を自分のために使ってみろという誘惑もしています。「あなたは神の子ではないか。あなたがこのように飢えているのは意味があるのか。神の働きを待つ必要はない。この石を変えてパンを作ることができるのではないか。そうしなさい。」しかしイエス様は神の子としての力を自分のためにお使いになられませんでした。イエス様は神様からの供給がなくても、ご自分の必要を満たす力をお持ちでした。しかし、イエス様は断固としてその誘惑を断りました。できないからではなく、それを望まなかったのです。イエス様が望まれたのは、神様のみことばに従うことごとくでした。神様を第一に考え、神様のみこころを成し遂げ、神様が与えてくださるものによってこの地上に生きられました。

■第二の試み

- 5 すると悪魔はイエスを高いところに連れて行き、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せて、
6 こう言った。「このような、国々の権力と栄光をすべてあなたにあげよう。それは私に任されていて、だれでも私が望む人にあげるのだから。
7 だから、もしあなたが私の前にひれ伏すなら、すべてがあなたのものとなる。」

今度は、悪魔はイエス様を高いところに連れて行き、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せて、このような、国々の権力と栄光をすべてあなたにあげようと言いました。「このような」とあるように実際目に見えるものを直接見せて誘惑したのです。国々の権力と栄光をすべてあなたに与えようということは、そのすべての統治権を与える、王にしてあげようということです。

旧約時代から世を救うメシアが来て永遠の王国が打ち立てられることが預言されてきました。イエス様が来られたのもその永遠の国、神の国のためでした。悪魔はこのことに対して語りかけてきているのです。「この地上での苦難は必要ない、あなたが私に頭を下げれば、すべての統治権を与える」と言っているのです。悪魔は非常に簡単な道を示しています。悪魔が提示した道は、無知な弟子たちを抱えて苦勞する必要もなく、人々に裏切られる必要もなく、十字架の苦難も必要ありません。世の中のすべての罪を背負って父の怒りを受ける必要もありません。このすべての苦しい過程をすつとばして、すぐに栄光の座に座ることができると言っているのです。悪魔に頭を下げさえすれば、です。しかし、これはただ統治権を手に入れるかどうかの問題ではありません。誰に従うかの問題です。悪魔は、神様が約束されたものを得る方法について、神の方法ではない違う方法、私が教えたもっと簡単な方法を使えと言うのです。

ここで一つ着目したい言葉があります。6節後半の「それは私に任されていて、だれでも私が望む人にあげるのだから。」という悪魔の言葉です。果たして悪魔には本当に国々の権力と栄光が私に任されているのでしょうか。この悪魔の言葉は部分的にあっています。悪魔はこの地上で権威を持っています。たとえば、ヨハネの福音書でイエス様は3回にわたり、悪魔をさして「この世を支配する者¹」と言われていました。またパウロはエペソ書において「空中の権威を持つ支配者²」と言っています。6節で悪魔は「それは私に任されていて」語っていますが、この「任せられている」という言葉は「パラディドミ」という原語で、何かを他者に渡す意味をもつ言葉です。つまり、悪魔はこれを誰かから渡された、露骨に言えば奪い取ったのです。かつてアダムは神様から地上を治めることを任された³のですがしかし、神のことばではなく、悪魔の言葉にしたがったために悪魔の手に渡ってしまったのです。しかし、悪魔は絶対的な主権は持っていません。これは神様の

¹ ヨハネ 12:31; 14:30; 16:11

² エペソ 2:2

³ 創 2:15,19-20

絶対的な主権のもと一時的に許されたものでした。しかし、悪魔はこれを何とか自分のものにし続けるために、今神の子さえも自分の前にひざまずかせようとしているのです。このように悪魔の本心を見ると自分が神になろうとするぞっとするほどの高ぶりがあります。イエス様はこれを見抜いて断固として拒否しました。

4:8 イエスは悪魔に答えられた。「『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」

これもまた申命記の6章13節にある言葉の引用です。申命記6章13-15節を見てみましょう。

13 あなたの神、主を恐れ、主に仕えなさい。また御名によって誓いなさい。

14 ほかの神々に、すなわち、あなたがたの周りにいる諸国の民の神々に従って行ってはならない。

15 あなたのうちにおられるあなたの神、主はねたみの神であるから、あなたの神、主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主があなたを大地の面から根絶やしにされることのないようにしなさい

神だけを礼拝すること、他の神に従わないことそれが明らかな神様のみこころです。故にイエス様は「主を礼拝し」と誰を礼拝するのかを明らかにし、さらには「主にのみ仕える」と言われ、ただ神だけがその対象であることを強調されました。自分が欲しいものを手に入れたために神以外にひれ伏すことは、簡単な道ではなく、滅びの道であることをご存知でした。荒野でのイスラエル民たちも自分の欲しいものを手に入れるために、神様が示された道ではなく、自分が良いと思える方法、簡単な道を選び、神ではない別の神にひれ伏しました。それ故に神のねたみを起こし、主の怒りによって滅びたのです。

イエス様が望まれたのは、神様のおことばどおりに生きることで神様を礼拝し、自分の方法ではなく神様が示された方法に従うことによって、神のみに仕えることでした。神様がご計画された救いの道は、預言者イザヤを通して予言された苦難のしもべにある通り、救い主が苦難を通して栄光に至ることでした。それは自分を捨て、十字架を背負うということでした。しかし、イエス様が従われたこの方法こそ、悪魔の奴隷になっている人を解き放ち、神の子とするための唯一の道だったのです。

■第三の試み

9 また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから下に身を投げなさい。

10 『神は、あなたのために御使いたちに命じて、あなたを守られる。

11 彼らは、その両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」

12 するとイエスは答えられた。『あなたの神である主を試みてはならない』とされている。」

悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせました。悪魔がイエス様をエルサレム神殿につれていった理由は、このエルサレム神殿が神の臨在と守りがある場所であるからだと考えられます。そこで飛び降りて、神様が守ってくださるかどうかを試してみろということです。そして悪魔はさらに先の二つの試練でイエス様がみことばをもって答えられたことを見て、今度は自分もみことばを利用します。悪魔が利用したのは詩篇 91 篇 11-12 節でした。神を頼り、神に身を避ける者を神が守ってくださるというみことばです。悪魔はこのみことばを利用しながら、あなたが神の子なら当然、神の守りがあるはずではないかとイエス様を挑発しました。しかし、イエス様は 12 節にあるように「『あなたの神である主を試みてはならない』とされている。」と申命記 6 章 16 節のみことばから悪魔の試みに否を突きつけました。

申命記 6:16

「16 あなたがたがマサで行ったように、あなたがたの神である主を試みてはならない。」

このみことばはイスラエルの民が荒野のマサという地で主と争い、主を試したときのことを思い起こさせて、もうこのようなことはしてはならないと戒めていることばです。イエス様は悪魔が言ったここから飛び降りてみよという試みとこのマサでイスラエルの民たちが行ったことに関連性を見出しておられました。

マサの地でイスラエルの民が神を試みたときのことは、出エジプト記 17 章 1-7 節に記されています。時間の関係上読みませんが、この時、民は荒野において水がなくなったために「主は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言って、民が主を試みたとあります。つまり、イスラエルの民は自分たちが求めるものが、自分のタイミングで与えられなかった時、神様はおられないのではないかと言ったのです。ここには自分が決めた枠の中で神様に動いてもらおうという動機があります。悪魔の試みも同様です。「神様はあなたはみことばでこう約束しておられますね。だからこの神殿から飛び降りてもあなたは私を守ってくださるはずですよ」といって身を投げることは、一見信じているように見えながら、実は神様を自分の思いのままに使おうとしているのです。ですからイエス様は「あなたの神である主を試みてはならない」と言われました。むしろ、イエス様は神の主権に自らを従わせ、神様の決定の中に自分にゆだねることを選択されました。

13 悪魔はあらゆる試みを終わると、しばらくの間イエスから離れた。

悪魔の試みは失敗に終わり、イエス様はこの試みに勝利されました。そして悪魔はイエス様から離れて行きました。しかし、悪魔が離れたのはしばらくの間とあるように、その後も悪魔はイエス様の働きを妨げ続けるということが示唆されています。

先ほど言いましたが、この悪魔の試みはマタイの福音書の4章にも記されています。このマタイとルカにおいて大きく異なるところがあります。それは試みの順番が違うということです。マタイでは石をパンに変えよという試み、神殿から飛び降りて神の守りを確かめよという試み、国々を与えよという試みの順に記されているのに対し、ルカではエルサレム神殿から飛び降りて神の守りを確かめよという試みが最後に来ています。何故ルカにおいてこのような順番であるのかを考えたとき、それはルカがエルサレムでの試みを最後に記すことによって、読んでいる私たちに伝えたいことがあったからではないかと思います。

この荒野での試みを終え、しばらくイエス様から離れていた悪魔の活動が、後の日再び、このエルサレムにおいて最高潮に達します。イエス様が十字架で死なれた受難です。この時エルサレムにおいてイエス様に差し出されたのは、神の守りではありませんでした。神の怒り、罪の罰としての死でした。もし悪魔が言った聖書の解釈通りなら、イエス様は死なないように守られるべきだったはずでしょう。しかし、神様はそうなさいませんでした。イエス様が人の罪の身代わりとなって死ぬことこそ神のみこころでした。イエス様が十字架の死を目前にしてゲツセマネの園で悶えて祈っておられた時、神様は御使いを送りイエス様を力づけました。イエス様が十字架の道を行くことができるように助けを与えられました。

説教の冒頭で人はすでに悪魔の試みに負けたと言いました。じゃあこのみことばは私たちには直接関係のないことなのかというと、そうではありません。イエス様は悪魔のすべての試みに勝利され、死に至るまで神のみこころに従い、復活され救いの業を全うされたのです。故に悪魔の敗北はすでに決まったものになりました。だから今自分たちの滅びを悟っている悪魔は、一人でも多くの人を道連れにして、天の御国へ行かせないように最後の悪あがきをしているのです。その対象は誰か。主に従おうとする一人ひとりです。私たちは悪魔の暗躍に今日のみことばから学んで立ち向かうべきなのです。

何を学ぶべきなのでしょう。1つ目に、神様に従う者には試みがあるのだということです。試みがないというのは良いことなのでしょう。悪魔の目的は神様と人を引き離すことです。ですから、試みが全くないということはむしろ悪魔から相手にされないほど神様との間に距離があるということも考えられます。イエス様も苦難を通して栄光を受けられました。そして神様の助けというのは、たとえ試みにあっても神様に従う力を与えてくださることなのです。

2つ目は、試みに立ち向かう方法です。今日読んだみことばは私たちにイエス様が試みにどう立ち向かわれたかを教えています。イエス様は書かれたみことばによって、悪魔と戦われました。これは書かれたみことばを呪文のように唱えて、悪魔を蹴散らすということではありません。書かれたみことばに従うことによって戦うのです。ヤコブの手紙4章7節でも「**神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。**」と勧めています。神に従い、悪魔に対抗するのです。自分の力で悪魔に対抗してはダメです。それでは負けます。私たちが戦おうとしてはいけません。神様に従うことによって神様に戦っていただくのです。つまり、みことばに従うことによって神の勝利に与るのです。

悪魔はあらゆる時に様々な方法を用いて私たちを試みます。私たちが大切なことは自分を信じないことです。自分を信じず、神を信じ、神に助けを求めるのです。神様はすでに戦うための武器を与えてくださっています。みことばの剣を手に取りましょう。

■祈り

■聖餐式

■席上感謝献金 賛美「主はぶどうの木」

■代表者祈祷 ①中村みちる役員 ②崔隆基役員 ③伊藤新役員

■頌 栄 「2025 テーマソング」

■祝 祷